

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

事業課題名	南アジア研究にかかる国際アドバイザーボード会議の開催とグローバルネットワークの構築
代表者名	田辺明生
事業概要 (600 字程度)	<p>京都大学における南アジア研究のよりグローバルな展開を目指すために、3 月に国際アドバイザーボード会議を開催する。そこにおいては、これまでの京都大学および日本における南アジア研究の現状と展望について日本在住の研究者より報告をして、世界のトップレベルの研究者からコメントやアドバイスをもらって、研究上また組織上の将来的なグローバル戦略について討論と相談を行いたい。招聘した外国人研究者には、国際アドバイザーボードメンバーとなっただき、将来的なグローバル戦略においてひきつづき協力をお願いする。組織上の戦略として、定例的な海外国際シンポジウムの企画・運営、学生及び若手研究者の交換プログラム、海外機関とのMOU締結を通じたグローバルネットワーク構築などの連携強化について相談する。予算見積もりは主に外国人招へい旅費で 2,300 千円、担当教員は、田辺明生、藤田幸一を中心とする。なお本会議は人間文化研究機構「現代インド地域研究事業」との共催とする。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>京都大学の南アジア研究においては、現代南アジア地域の現実—文化、社会、政治、経済、自然、環境等—を総合的に把握し、その変化の行方を見定めることを目的とするとともに、そうした客観分析に基づき、一步踏み込んで問題の解決を志向する研究を推進していきたいと考えている。このような目的を達成するためには、海外のトップ大学およびトップ研究者との組織的な国際連携をより一層深め、国際的かつ学際的な方向で議論を深化、拡大させる必要がある。</p> <p>本事業をつうじて、これまでの研究成果に基づいた日本の視点からの南アジア理解を強力に世界発信していくと共に、国際アドバイザーボードメンバーとともに、南アジア研究にかかる組織的なグローバルネットワークを築く端緒を開くことができた。これにより、これまでインドと欧米が中心であったインド研究において、日本の京都大学は、世界の第三極のハブとしての地歩を確立していくことになるだろう。</p> <p>本国際会議では、全体テーマを「グローバル化する南アジアの構造変動—持続的・包摂的・平和的発展のための総合的研究」とした。本研究テーマを中心として、日本独自のアジア理解を提示し、国際的・学際的な議論を推進することにより、これからのアジア研究の国際的展開に寄与しようとする姿勢を示すことができた。また本会議において国際アドバイザーボードを発足させたが、これにより、恒常的な高等教育研究グローバルネットワークをスタートすることができた。</p> <p>本事業を通じて国内外の研究者のネットワークをさらに緊密かつ組織的なものにするによって、現代アジア研究の分野で、グローバルに発言できる次世代のグローバル人材養成のための学術環境整備に資することになるだろう。</p>